

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション・農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
次世代エネルギー・モビリティ創造特区 (豊田市)	4.8	4.6  進捗度 ・再生可能エネルギー(太陽光、小水力等)の地産地消率の向上 188%  ・モビリティの活用によるCO2の削減(運輸部門) 113%  ・市域経済の成長 94%  等	4.4  規制の特例等 ・HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)を介したスマートフォンによる遠隔操作  財政支援等 ・人がつながる”移動”イノベーション拠点 ～高齢者が元気になるモビリティ社会～ 等  地域独自の取組 ・豊田市エコファミリー支援補助金 等	5	<p>・エネルギー価格高騰により、世帯レベルでの支出削減効果も発揮されていることが予想され、スマートハウスの経済的合理性の検証を行ってもよいように思う。</p> <p>・評価指標(1)の「モビリティの活用によるCO2の削減(運輸部門)」については、2030年のカーボンハーフ、2050年のカーボンニュートラルをめざす社会状況を踏まえた、目標設定の見直しの可否も検討されたい。</p> <p>・R4年度も殆どの指標で目標値に近い、あるいは上回る実績を積み重ねている。</p>